

福島民報出版文化賞を受賞

「只見とっておきの話」

昨年、町制施行50周年を記念して出版された「只見とっておきの話」が、第34回福島民報出版文化賞を受賞しました。



▲福島民報出版文化賞の賞状を手にする目黒町長

7月15日の授賞式には、久保克昌副町長と編集を担当した新国勇さん（只見）が出席、出版文化賞奨励賞を授与されました。審査委員長から「永久保存にたる本」という賞賛もいただきました。

「只見とっておきの話」は、広報ただみ誌上に「町史とっておきの話」として掲載された全186話を再編集した本で、昨年全戸に配布されています。「とっておきの話」は現在も続いていて、今月号で通算209回、17年にわたる長寿連載となつていきます。これに携わっている新国勇さんから感想をお聞きしました。なお、本書は米屋書店（只見）で、一冊千円で購入することができます。



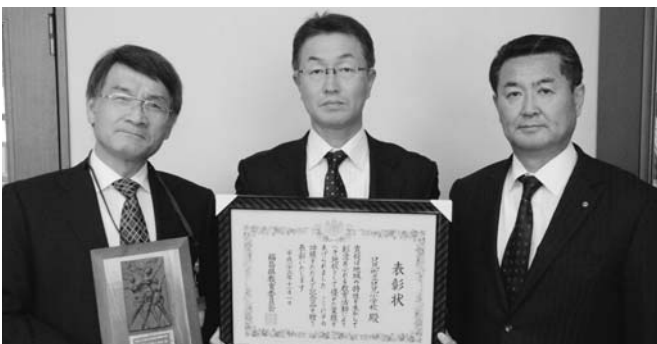
▲「只見とっておきの話」

教育・文化関係表彰式

優れたへき地教育校に只見小学校

福島県教育委員会が主催した平成23年度教育・文化関係表彰式が11月1日に、福島市音楽堂で行われ、へき地教育で顕著な功績をあげられたとして只見小学校が表彰されました。

これまでの授業力向上に関する研究や、エコ活動、教育環境の改善など、様々な特色ある教育活動が認められ受賞となりました。これからも、地域色豊かな教育をお願いします。



▲表彰状を手にする高橋吉博只見小学校長と目黒町長(右)、齋藤教育長(左)

出版文化賞を受賞して



新国 勇さん(只見)

自分の町の歴史や文化、自然がよそにはない貴重なものだったということがよくあります。たとえば、只見のブナや巻物が国内トップだったり、戊辰戦争では長岡藩を助け、絶滅危惧種のクロホオヒゲコウモリやユビソヤナギがいるとかいうことは当たり前の話ではなく、只見の誇りとしていいものです。

「町史とっておきの話」は、一話読み切りで連載してきたのですが、この長い取り組みが今回の受賞につながったと思います。町では只見学の推進を提唱しています。この受賞がその礎になることを願っています。

最後に執筆された多くの方々、そして調査や聞きとりに快く協力していただいた町民の皆さまに深くお礼申し上げます。



▲松下政経塾で宿泊研修に参加する受講生



▲研修の様子

## 地域人材育成ダイヤモンドプラン事業

松下政経塾で宿泊研修

昨年度からスタートした教育委員会重点事業「ふるさと只見・人材育成講座」では、今年度、2期「産業を興す人材育成」と3期「集落づくり支援員の育成」の各受講生から8名の皆さんが松下政経塾（神奈川県茅ヶ崎市）の行

う宿泊研修に参加しました。期間は11月8日から9日の二日間行われました。

只見町宿泊研修のテーマは「魅力のある地域づくり、人づくり」で、塾員（卒業生）の方や現役の塾生の方の講義や活動報告を聞いたりと、討論会を行うなど、貴重な体験ができた研修となりました。参加者は「町の活性化に貢献したい。町の良さを情報発信したい」と意欲を表しました。この研修で得たことを活かし、将来の只見町を担うリーダーとして活躍されることを期待したいと思います。

松下政経塾は、政治や経済分野、教育研究、マスコミ分野などで活躍する多くの人材を輩出しています。

## 参議院災害対策特別委員会

7月新潟・福島豪雨被害状況調査

松下新平委員長をはじめとする参議院災害対策特別委員会の委員12名と国の担当者が11月10日に、只見町と金山町を訪れ、7月29日に発生した豪雨による被害や復旧状況などの実情を調査確認しました。

只見町では、橋が落ちた小川橋や叶津川の護岸崩落箇所などを視察、その後、只見地区センターで、松本友作副知事はじめ目黒町長、長谷川律夫金山町長が松下委員長に要望書を手渡ししました。要望には復興に向けた財政支援やJR只見線の早期復旧などが盛り込まれており、手にした松下委員長は「皆さんの考

えや意向を政策に活かすため前向きに検討する」と述べました。



▲松下委員長に要望書を手渡し目黒町長(左)

## 国道289号「花立橋」の仮設橋を設置

7月の新潟・福島豪雨で被災し、通行不能となっていた国道289号の花立橋（楢戸地内）の仮設橋が設置され、11月11日の午後から通行が可能となりました。今後も、本橋の復旧工事が進められ、交通規制も行われますので、通行には十分ご注意ください。



▲設置された仮設橋(左の橋)

## 只見町小中学校音楽祭

水害に負けない元気な歌声

11月16日に只見町小中学校音楽祭が只見中学校体育館で開かれ、只見・朝日・明和小学校の3年生、4年生児童と只見中全校生徒が参加しました。

参加した子どもたちは、7月の豪雨災害の影響で例年より練習時間が少ないなか、一生懸命に練習し、その成果を披露しました。各小学校の合奏では息の合った楽器演奏

奏を、合唱では大水害に負けない元気な歌声を響かせていました。只見中全校生や特設合唱部の合唱も水害のハングを感じさせない清らかなで繊細な美しい歌声を披露、保護者や町民の方など聴衆を感動させていました。豪雨災害の記憶も新しいなか、元氣と勇気をアピールしたすばらしい音楽祭でした。



▲只見中全校生の合唱

## 伊南川・只見川 再生復興フォーラム

復旧はより良い川にするチャンス！

只見川電源流域振興協議会の主催で11月23日に南会津町伊南会館において伊南川・只見川再生復興フォーラムが開かれ、約130名が参加しました。

内容は二部構成で、第一部では「水害にどう向き合うか」と題し、伊南川・只見川の洪水被害から、川の復元を考えることについて、目黒町長や長谷川律夫金山町長らがパネリストと

なり、意見が交わされました。目黒町長は「スピード感のある災害復旧を行い、いち早く安全・安心な川をつくる。原形復旧よりも改良復旧を行なうてほしい」と考えを述べました。

続いての第二部では「復興に向けた河川活用を考える」と題し意見交換があり、ただみ養魚場代表の小沼信孝さんがパネリストで参加されました。

## 7月新潟・福島豪雨 ダム放流に関する住民説明会

7月27日から30日にかけての豪雨にかかわるダム放流に関する住民説明会が11月18日に只見小学校で開かれ、約60名が参加しました。

目黒町長並びに辻村電源開発東日本支店長のあいさつに続き、支店の担当者より、奥只見や田子倉ダムなどの放流状況や豪雨時のダム操作の確認結果と、ダム放流に関する住民への周知方法の改善などを含む今後の調査や検討内容について、スクリーンを使っての説明がありました。



▲真剣に説明を聴く参加者

参加者からは、ダム操作について疑問の声が出されました。

## 福島県議会議員選挙

只見町開票区：開票結果(11月20日執行)

星 公正(無所属) 2,188

渡部 勝博(民主党) 1,351

\*有権者数 4,189人

\*投票率 85.44%



▲災害復旧への考えを述べる目黒町長(右から2人目)